

2014年春闘スタート！

新聞報道によれば、経団連と連合の幹部が5日、東京都内で会談し、2014年の春闘交渉が本格的に始まった。経団連は6年ぶりに、基本給を一律に増やすベースアップ（ベア）の実施を容認したが、業績が悪化しても引き下げが難しい人件費の増加を警戒し、慎重な企業は多い。労組側はベア実施を強く要求。3月中旬の回答日へ向け、厳しい交渉が予想される。賃上げが中小企業や非正規社員にまで及ぶかも焦点だとされている。

従来にない背景

経団連は2008年のリーマン・ショック以降、ベアは認めてこなかったが、今年は「ここ数年と異なる対応も選択肢」と6年ぶりに容認した。その背景には、円安などで輸出企業を中心に業績は改善傾向にあり、政府主導の政労使会議で賃上げを目指すことを合意したことも大きい。政府も「ベアを含む賃上げの動きが広がることで、経済の好循環を実現出来る」と強調している。アベノミクスの成功の鍵は、ベースアップにかかっているということなのです。また、4月の消費税アップも要因といわれています。このように、政府主導主導のベア容認が従来にない背景としてあるのです。

企業はあくまでも慎重

米倉会長は会談終了後、記者団に対して「月例賃金（月給）でも一時金（ボーナス）でも（報酬が）全体的にあがればいい」と語り、賃上げの内容は個別企業の実情に応じて判断すべきとの考えを示しました。ベアは時間外手当や社会保険料、退職金、ボーナスなどに跳ね返り、固定費が膨らむため、中長期的な業績改善が見込まれないと踏み切れないと、慎重な姿勢を崩していない。

ベースアップを実現させよう！

会談で連合側は、「月例賃金にこだわる。働く者ひとりひとりの明日への信頼の証だ」と主張し、ベア実現に強い意気込みを示したとされている。ベースアップとは賃金表の書換に他なりません。働くひとりひとりにとって、生活の安心感が増すことが何よりも大切なのは、今更いうまでもありません。そこから、新しい活力が生まれるのではないのでしょうか。

ベア獲得！ 定期昇給の経過年数による減額撤廃をかちとろう！